



仇諧彦一乃梨

上

一九七



目をあつたりの便きしきさし子
 ぶしむしやむしりししあはは
 藤下居蘇つるのしきま書巻の
 久舞のまの向折るむを一篇あし
 やし板割のまよひまをさうつそく
 束しそまをとおひのまりしつるハ
 紙魚うまふるあしつるまを費

かの舞のまの月下さし子の
 布巻のまのまのまのまのまの
 されまのまのまのまのまのまの
 あははのまのまのまのまのまの
 えもまのまのまのまのまのまの
 折れもあははのまのまのまのまの
 そあははのまのまのまのまのまの

志方を才の伴に束るよくも見付て木よの
不せんといふに花寸角きもあつねえ
それらふよまうきこりさきとけらよ老と
らん人の見えふいとちうう十つ十とを
るそ移来といふは何そと何よひまるひの
脚けよせんとのと扱意の付句よた人のをく
少治しおる進しとを定る速ん昔意邪よ
名なき聖あり何あうく意の冥情を志
りあやと人の冗しよふか毒ても見ても
孫院を志しひをらんをもてよありと巻く
しといとさきしきるるまやをくハ其太沙う

新書や治より意の千ね詩といふ句の意の一字を
男よへし萩の枕といふ集よけは室よ才を志
きりりといふよ文きて形む便りの鏡ときといふ
祖翁の附句よ是ハ才をうれたる女の母乃
才ハ移る文之赤句よけはとあるより附句の鏡
研とあるを志あへしけ文を推ひ女のあのか
やるとんてハ只よ赤くの附きて公孫の意よ可
いし祖翁ハ神よ意句よ妙を細きゆめより意
はのりつて扱ひの才よ抱くへとせつうきて又ハ
あやふつて洗ふ油も樹をよ意のんをわた
せたるるとしと挙るよいとぬあつて言ふよ

あつれさるゝ人妻の乃ふあゝあゝい徹女記抄語
お忘れぬやさい早れりう我ん着るる世とそい
ひておまきしといふ定家々の歌をあけてはつ
誰も乃ふまきい恋の歌ありとちねさるゝされい
身も侘憐まも先遣のこゝろはとあゝきし
思ひやちぬし古今抄よ曰難考 恋の一字ハ天の
浮橋の詞よりハまの法まこめうゝといふて大和歌の
本意とるまきれハ代々の帝の撰集まも恋の歌を
しといふとるしけぬと連歌のま式よりた
かしの古抄よあるを恋の詞をま集めて恋ハ
三句よりみ句と定むまといとま集るハ詞

をりて恋とま守まて又字よかりぬて古抄よ
女の一字より娘とく娘ともい一世良傾城の恋
目とても當句よ恋のま情あき時ハ例の言葉
を恋といまのけあゝ他門より恋を一句よて
捨るといふてあゝの沙はありし恋ハ陰陽の
及程より一ハ必二よ定りまを四ハ拍の
邊行るれハ三句よりみ句ハ時よ修て恋
を一句よて捨るまあゝを中右のま
かいま風呂屋のまよ下帯と附ても恋ハ
二句ありといまんゝとき我家よ且てま扱
るし△恋の一條ハ今武のたよりそ恋ハ

一句まで控まき修治の理のそをいひてま
おハ未終は定ううんを友いんとたれハ
詞の意ハ字ハあまことんの意ハ句ハあるゆ
そ時そ句ハ向ひまきハ句情ハかひて捌
たといふしん物の報も一度又起をらひ
先さそりやと多拭とよ句ハふしん物の報
そころの境を掃おろすよおかれて起る人
の多拭を多よ掛て及び獨よさうか
大工本挽の立さいきて拍のき活ぬさぬる
を三句目の依老の夜を志りて打うの
そこひを情せんところ起情の附方を案

しとおろすやおたしぬうりのはれるくて
傍軍中の志のひ森よ座の下ろりいさや川の
いさ志ぬ白そおるうり志うきそあ句の
依老ようつてそ意ハるん事ともほの依老
の眺方よりおしと意のぬ情を足付たれハ
彼とあとの二句とるりて意ハ変して二句
ありといふ一しぬくもぬらひの無情るれとも
附句よ志ころひて意とるまハ意ハ一句まで
控のといつて師資の口訣ハけいひるるへ
又白草紙ハ曰是ハ三きりの内の一つなり依老の
意の正を先抄曰むうりより二句結さきと

用ひたる也むうの句の意の詞をのりて集
おきまゝ詞をつり句とるるの意の詞と
おりのきりありその宗神宗師の以てハ
て止る例るきよもあはれは故なく人
も法して一句もてあはるるもあはる
又いそぐあ句意ともあはるるも
かゝる句を時ハかるるの意の句を付て
句ともあはるるもあはるるもあはる
小説おるもあはるるもあはるるも
る例るきよもあはるるもあはるるも
神人のあはるるもあはるるもあはるる

屏風の陰のえの葉子多とある附句と見
あ句の理をつき意を一句は捨つるとい
はるるもあはるるもあはるるもあはる
寸意ハ月花の傍てまきおるもハ二句ハ
あはるるもあはるるもあはるるもあは
積るるといひまてんもあはるるもあは
詞を集めてハ小冊を意の葉と題寸彩及の先
遣と彩む亦の妙もあはるるもあはる
短支えもあはるるもあはるるもあは
物を集めて億万の億万の億万の億万
又まゝなるるもあはるるもあはるるも

古くはとて...
 悪句の扱...
 身をも...
 是を戒ん...
 ぬゆを...
 か...
 うるはく...
 老漁其日...

凡例

一字の上よー...
 ととの字...

一字のか...
 媚コタム嫉イと

との...

一かかく...
 あり...

川女の合志と改め物也

一 けと飯志をひのるふあまのしほにほて
かろと正さひりまくのほとあく
をとめおとめろくあく飯志の海も
華たまとこいそ物よまうそこの海ろり
預伝のあふとあまの只志を世家の
さとしあふんとあふいとす

一 附言よりくけ小冊志榮と題え

たきこえ全文皆志の行よるるとい
あまのあふ只婦人の上よき用るる
の志と裁るる人海志まよとるる
一 新門のまうち乾坤を首よ並の
定る法なれとは冊志よとつま
たきこえとつる字をそまよあふん
入る門をあふ並乾坤をほまま

目録

人事 初丁

婚姻 二十二丁

支俸 二十七丁

人倫 三十一丁

意よりよき人懐あつゆり
と語むくの古神和漢
の好るやホを付集

嫁入聲入の式まして主人
まいつけらるる及々未とわ

右よりつりつり婦人の髪
のこらるる介目白病跡

そのききそのの上より廢人
のいしきよむるこまて
婦人の名目を多く載

衣類 五十丁

忌用 五十八丁

買込 七十八丁

神祓 八十丁

乾坤 九十丁

衣類より平生の衣類書を集

忌用婦人の身よを付る忌物
取物考らるる古物の類

買込於女の忌目買をよよ
りる古今の忌所地忌ホ

神祓を形する所の神仏ある
自中初るホと記

乾坤の行よりる忌不徳忌
事のみ余類和漢の好る
ホ多く載

類聚

書目録

日本紀
古事記
職系抄
令義解
新代卷
延喜式
西宮記
江次員
梁益抄
西宮記
抄本備找抄
いせ抄

日事紀
石事集
祿令
西史
職員令
禁秘抄
權記
竹五抄
北山抄
女友傍抄
八雲抄
去佐日記

大和抄
業系抄
卷玉集
柳花集
小右記
洋正式
江流
源氏抄
花多余佳
細流抄
弄花抄
業花抄
三知抄
名目抄

了つ不抄
玉傳抄
善相公異見
榻野曉
胡曹抄
笈見記
仙見抄
岷江入礎
河海抄
孟津抄
袖中抄
了交抄
通找抄
拾效抄

類聚

三

堯撰式
聖皇本紀
和名抄
公事公孫
六百卷身合
齊海交
仙原抄
椿原紙
身林良哉
皇蒙抄
拾葉抄
つれく草
長能私記
松葉抄

互見抄
藤垣州
百寮刑要
堪川及中日記
玄旨安玄
友行法託
關疑抄
職人身合
匿名抄
裝束抄
自撰身記
仲社考
四季州
歲時記

神了了
後教抄
詩經
周孔
說文
前後漢書
西京雜記
天竺遺事
白氏文集
遊仙窟
吳竹集
揚氏漢語抄
香及秘傳
婦人養身草

詞林採美
小笠原大法孔
孔記
爾雅
叙名
遵至八牋
五雜俎
文選
姓氏錄
冥鬼志
去而不志
源平盛衰記
諺草
和身分歌

新編

新編

信

京羽二重

名所々々

長衣

玉猪鬃

万葉考

冠辞考

了く草

小袖流

身松名考

京式ア日記

大目録の載せざるハ又丹ノ合志を

人相判紫系彙

女用判紫系彙

新改丸

をるひこそ

形式

増山井

和身七ア抄

雅於浸珠

安於後筆

万葉畧解

勢結徳乃

志繁上

人事

江戸 葎麿廢北元著

○志

こころひ

うき

えろ

新

支

さむろ

勢

信

信

るきむ

いも

風

の

夜

の

物

あし

おもふ

片

志のふ

乃

つる

下

いそぬ

えき

かまぬ

稀

つま

人

の山

ん

の海

のや

の世

病



○**契** ちきり 一かよふ契とあり

一 ある 契 二世の

一 おの 契 むす

一 我 契 て

一 カイトウトウケツ 契 一ツ蓮の上

○**偕老同穴** 詩 一ツ蓮の上 一ツ穴 一ツ穴

○**あもをきぬ** イセ 一ツ蓮の上 一ツ穴

○**一の形なき** ケウ 契 かきちきり

○**あちまどひ** らんを掛 契 またとてい

○**拙言** ちい 一ツ蓮の上 一ツ穴

○**うけびる** ちい 契 かきちきり

○**むすび** 一 契 て

○**よりの系** 一 契 て

○**いなせ** い 契 て

○**黥** い 契 て

○**ゆび切** 一 契 て



さくさくの西京日蜘蛛襲而萬事喜

○**牝** 結 むすまきくさくさのー杖のよふきー

おとろとー酒のよきま及芝の葉
とむすまきの海むすみのん五味うつねるうてくさ
むすまきのきとくさありん日まてくさ

○**鳴** 人のーー支 我ー

○**末** ぬ夕。さるむひるの**嘖** ひるをすねはなま
ひると左のつ

五よけえ拍 人道我則嘖 詩願言則嘖

○**な** つかー 志を執れ 古 月も花もいらく
志ありてする

○**隔** へたらの へたらの へたらの へたらの

いふくすを○へたてある虫はねむーのるん

○**換** 換 函中川のるるとある

○**舎** 道 五よけえ拍と引の山は妹と並てとる
おの拍のあまぬの拍とつてけてそれ

を拍てひろておのくまをふすむてのり
とよらえりゆの山は冠とくさるに傍をく

○**さ** ーたる。ーおそく**鳴** カト 大和

○**夏** 古はいりをつひてゆめとつひくさるー
伊米の侍はあそ米は目くねて拍とるん

○**会** ーのる ーのひめ ーの語

○**の** 柵 ーのたぢ ーの占 ーの世

○**の** 内 ーの通筋 ぬらうー ーの人

○**の** 心 ーの心 ーの心 ーの心

新編

十

○出テ五タ采ハ○笑イ。艶詩序疏云謂女

一 ぬ 一 人 一 くの 一 の 世

一 子コ男ノ。世ノ人ノ。世ノづいたる男女のま

○眼コ心ノをコつコ。粧シ五タ。まメれたチ 瞋ヒ抱ヒ

好シ色ノのヨ用一 函一 ままきくあまきく

みみそろとと。批ハあらるく。たたごごよよととす

○ままろろびび合合。物ヤ束ク 山ヤ々々くくそそくく

○身ミをシ但ニ。ささ一一むむふふ。千チ扱セ一一扱扱

○ささ一一ああひひ。毛モききとと。身ミをシふふるるす

○ふふるるささろろ。志シるる世セ好ホりり。かかりり初ハ

○いいひひええししむむ。いいひひささくく。子チ話ワこことと

○ううかかききるる 月ツキもも花ハナもも。身ミははああままるる

○ううちちととけけ。ううハハのの方カタ。そそののたたののめめ

○付ツききしし。吸ス付ツきき。近チままききりり ちちおおととりり

新編

十

巻九

廿六

かきく ふのりこ ○ ぬき ぬき ○ ぬき ぬき

狂勢 ウカシトリ ○ 病勢 ヤヒメカラス ○ 明馬 ○ ほき ほき

難面 顔 伊 | | 人 ワタ | | 世

○ まり マ ○ あり ア ○ あり ア ○ あり ア

意味 意味 又人の情を意味したと云ふ

○ は ハ ○ たる タル ○ 強 強 ○ 半 半 ○ 丹 丹 ○ 後 後 ○ 女 女

つ つ ○ あり あり ○ あり あり ○ あり あり

み み ○ あり あり ○ あり あり ○ あり あり

あ あ ○ あり あり ○ あり あり ○ あり あり

○ 中 中 ○ 合 合 ○ へ へ ○ へ へ ○ へ へ ○ へ へ

○ 笑 笑 ○ 目 目 ○ 目 目 ○ 目 目 ○ 目 目

○ う う ○ た た ○ た た ○ た た ○ た た ○ た た

○ 恥 恥 ○ 恥 恥 ○ 恥 恥 ○ 恥 恥 ○ 恥 恥 ○ 恥 恥

一 一 ○ 一 一 ○ 一 一 ○ 一 一 ○ 一 一 ○ 一 一

一 一 ○ 一 一 ○ 一 一 ○ 一 一 ○ 一 一 ○ 一 一

慈濟

十

○^{ワラ}子束人形。子束のこゝの草チのん散

生具を祈る時具の祈るよき子をまき並て祈

付るよのせ川へなる守りあり 上り人ハ今そ

よらるる長ちぬのあし毛の祈よらつるゆりし

け身を清く神を祈る 函あつたの上より

○ふと乃。不交。○^ツ後のうさるる

女のこそまをすねハたきいなるくのつしきるとよ

の芥セリ 搗ツム ハて物エ意する人のあぬのし一を油油法

まうつと丸せりつて地居を意とまうつ

又選 献芥のさし又セリ

を不りて甘しとつて送りしを昔とつてこゝに

しを恨しと我々よりとおひつてもおひつるのんま

多くけるサ松モもこらう せうしむうのんも我々

ヤムよとの 十つ十 一也十つ十八百之玉子百

まらぬくくくるすあきふハるるを おひつるぬんハあのみ

うらみのつらしそあふまの文選 思ニ卯卯於於田田宣宣其其名名

りののこをすつ十をきぬとも おひつるぬんを思ふつ

○^ウ流越ウ のぬるすよりわらうるハ四

○^ウ喧立ウの 迂ウ だます

○^ウ乳ウ だます

るよろろの父の抱くぬの志つり

○^ウ二

とけりありとある物語を案ずるに御行あることと
 してと志すも又いふとされと御行おのれのよし
 におこりハ意よりとりつりあこまこと云あまのまのまの
 ○相聞^{アヒキ}へ 像お抄におすハ意よりと 八重^ハは
 以て意お申之極まむと云 反おすハ
 多日云まき反意と云は 了ん 御行あるを
 告すゆれハ意と云 又御行は是なり

○不定 源氏の息御中將式部と云女の上の
 上中下のおくをわくま

○む扱の物語 上。をこのおを定^格
 をとこえり。男坊。一。ま。一。ま。一。ま。

○かハゆー不電 いろく整て。空籠^空也

二話きり 一。ふ。不。ひ。人のあめ
 おしゆき ちよおちり。つ。く。き。ま。ま

源いとよむい 〇よる^〇 〆たのむえんあるあを
 やうよろとく 〆男のあをちくし

美のあのを 〆あるをちくとよるのあは神
 催了宋へ内意よりなるえの相

〇 後山 妹之門 眉止之女 妹之我
 逢及 総角 指 様

〇 海^〇 夕白 浮女子 花籠
 松風 揚そ此 班女 井筒

葵上 祢本 子 二人神
 舟橋 余女 及御子 通所

定秋 志を有 如御花 以下田考

〇 二冊

〇 二冊

巻之二

川で浴おぼるるうかろうのむこり子の川子の山
川の二あり そまわらうくあま

○帯きらる○帯のいそひ ○目合○夜女 メアハセ メトル

めくらハ嫁れ ○出立 祝敷を 振きまき ○暇乞女房 イトコヒヨウホウ

○門火焚 ○輿入 ○家お相 お相

○おま教書 ○ちの護刀 ちハ志願のこく

○近小袖 ムカヒコソテ ○流小袖 ソヒ ○お人お餅

おまのあま度うまのせて送る ○お人お餅

男の方を嫁のき物通る時 あまの白をすく

つきくる餅をあまの白へ入を お相お相を通る時

老人のまゆ柄をお千歳万歳とあまを合せて

きき合するこれをお合もちと ちぎり餅

お合もち 新巻し用な式 ○貝桶波 カヒヨケマス

○お女席 おのあまのうけとり ○お女房 ○近女 ムカヒヨウホウ

○紙燭さし けしひのうま

○二十四

○化粧の君 体息不 ○床 トコ 鏡 カガミ ○押 オシ 巻 マキ

巻末 ○侍 サマ 巻 マキ ○勢 セウ 鏡 カガミ 巻 マキ ○難 ナニ 波 ナミ 侍 サマ 巻 マキ

○福 イナ 鏡 カガミ 着 キ ○多 タ 巻 マキ 着 キ ○鏡 カガミ 鏡 カガミ 着 キ

○女 メ 鏡 カガミ 男 オト 鏡 カガミ ○長 ナガ 柄 カガミ 鏡 カガミ 子 コ

○提 ヒサ 子 コ ○湯 ユ 子 コ ○糸 イト ね ネ 子 コ ○籠 カゴ 子 コ

○並 ナラ 子 コ ○並 ナラ 親 カガミ ○婢 ヒメ 子 コ ○大 オホ 鏡 カガミ 子 コ

○貝 カイ 桶 ツツ ○貝 カイ 皮 カガミ ○手 テ 樹 カガミ ○二 ニ 重 カガミ 一 ヒト

○引 ヒキ 渡 ワタ ○衣 イ 櫛 シ ○線 セン 衣 イ 櫛 シ ○厨 ク 子 コ

○香 カウ 立 タテ 餅 ヒナ ○三 サン 枝 エダ の ノ ね ネ ○か カ る ル 人 ヒト 結 ムス 小 コ 神 カミ 子 コ

○お オ り リ ひ ヒ 結 ムス ○さ サ だ ダ の ノ 一 ヒト ○か カ い イ

流 ナリ 女 メ 男 オト ○郷 キョウ 食 シキ の ノ 様 サマ ○打 ウチ 筋 スジ ○揚 ハタ 灸 イリ 三 サン の ノ

これ コレ を ヲ 式 シキ の ノ ○結 ムス 石 イシ ○式 シキ 三 サン 枝 エダ

流 ナリ 女 メ 男 オト ○郷 キョウ 食 シキ の ノ 様 サマ ○打 ウチ 筋 スジ ○揚 ハタ 灸 イリ 三 サン の ノ

これ コレ を ヲ 式 シキ の ノ ○結 ムス 石 イシ ○式 シキ 三 サン 枝 エダ

流 ナリ 女 メ 男 オト ○郷 キョウ 食 シキ の ノ 様 サマ ○打 ウチ 筋 スジ ○揚 ハタ 灸 イリ 三 サン の ノ

これ コレ を ヲ 式 シキ の ノ ○結 ムス 石 イシ ○式 シキ 三 サン 枝 エダ

之く九登のき成三。鏡吸拍。難矣

○湯漬。十二組菓子 うまのし まんぢり うや

あつひ ○嫁花 おとーまゐり

○煙目。響。おし子 いり

○舅方。姑。二世のかとめ のりまーの髪

○二及の布をひとらふは まゆり

○床を。小松。彩まら い

○朝の湯。おみ お。初衣足痒。○饅女

○唐紙 あはれ。公女。祓ふ と

○板子。つさ守。色 あ

○里行。回。目。二日のおの餅 あ

○花 あ。つり あ

○猿 あ。餅 あ

○忌 あ。詞 あ。十八言

源氏物語

○きりそく ○きりそく ○きりそく ○きりそく
 ○きりそく ○きりそく ○きりそく ○きりそく
 ○きりそく ○きりそく ○きりそく ○きりそく
 ○きりそく ○きりそく ○きりそく ○きりそく

○あはれ 永祿の以阿波の三好も家臣松永洋一
 姓を我家の之流臣にありしをけしめられしを
 つとむるもきり血光のさうらるるははてたむれ方をそ
 こるひ病をせし式ハ口海國より及しよりける止ま
 き去るのありしを要し男は神主の取に執事をす
 きえき子立正月の終りまでしり
 大に裁する増礼式志小笠原大法親王を介
 京との裁をよつて裁者浅なるは後編よか

支俵

○めくハセ 目成目加目合眼語目まをんを函す
 ろう樹津よむ信の女よりくりせをさるる

○人目 んめせろー志のよしろろーの雲
 めませ めまひく 志りめ めろり

あひさき 柳のめ めえのしんか へもろんそめ
 まえさき

○睨 目 睨こく 目のさき
 ろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ

○眼眶 植人眼皮有自動名之曰眼眶則見
 好人矣 くらさるる時のおあるる

○涙 涙 涙の川 涙の海
 ーのさき ーのそて

慈 慈

三十世

一の御 一のまゝと 一のまゝと

紅の 一のまゝと 一のまゝと

もろす 一のまゝと 一のまゝと

一のま 一のま 一のま

○恋のあさし〜く〜の松〜く〜の袖ぬき

そこのあ 一のま 一のま

○髪 一のま 一のま

さけ 一のま 一のま

一のま 一のま 一のま

一のま 一のま 一のま

新藤 一のま 一のま

一のま 一のま 一のま

○目さ 一のま 一のま

カタスキ 一のま 一のま

○肩 一のま 一のま

下ろす 一のま 一のま

一のま 一のま 一のま

○髪上 一のま 一のま

○髪 一のま 一のま

以上万葉考 一のま 一のま

一のま 一のま 一のま

をさるハとせ子のかこらうのけをえらりよとあり
イセくく一ふりあうことかこぬえあふりして
たれあへくべき

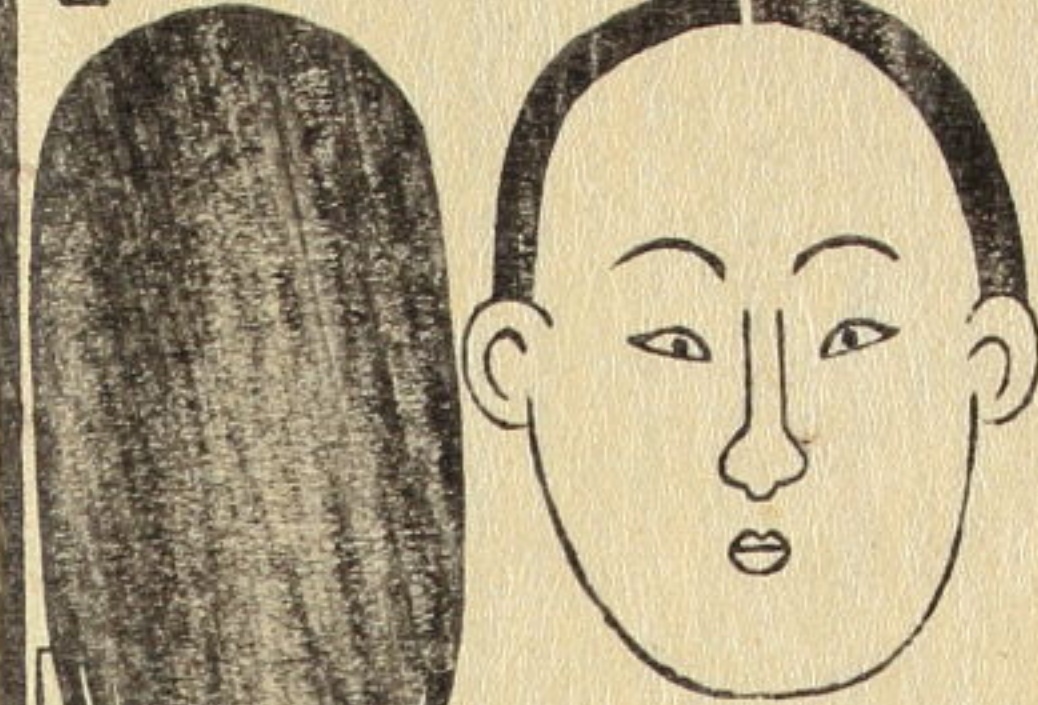
ふりか髪

雙又松亭花板
假粧略記とよま

裁く後並に髪をついで裁く事女をひん毛を十二等
半たちへさける事

○髪をゆるかしの髪 髪をゆるかしの髪

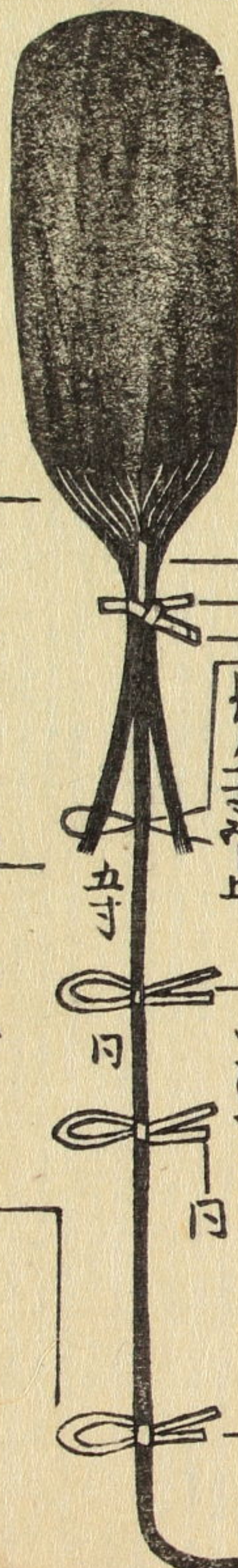
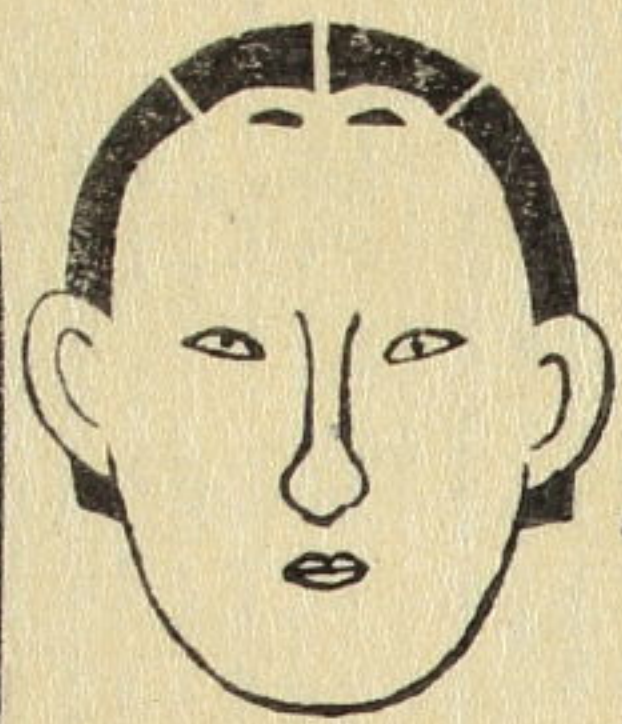
毛ゆま 毛ゆま 毛ゆま 毛ゆま 毛ゆま



生毛の眉のゆりよきをすそを付まより
そくて白きをを並髪れのゆり合を海
て眉よえんをさす今ハ眉のゆりよ白きハ
をゆりよきをすそもまゆの眉のよ白
をゆりよきをすそを五倍とよ

中え結
髪ゆりよ

ひくハ丸くしてきてハ髪を並てまゆり付て白きを
をえりけゆひひよ一ツを中法なれと今ハ二ツを
又髪をゆるかしの髪ハ入果ふきをのゆりあふ
○大をゆるか



ひくハ丸くしてきて
をえりけゆひひよ

七のすいようがき
中えゆひ
大えゆひ
白紅のひんまき
より二ツを上

白紅のひんまき
より二ツを上
白紅のひんまき
より二ツを上

薬

三

○^ハ下髪 ^{イロ}髪を結て下す ^{サケ}眉のたそをとり

○^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}女子はうと下す ^{ウツ}式とす

○^{ウツ}びんそぎ ^{ウツ}十六才の時髪をそぎたるのびんの毛と髪をそぐのふと ^{ウツ}十一歳はたそ下す

○^{ウツ}上おどり ^{ウツ}これをおとす ^{ウツ}上おどりやせんといふは男女

○^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}山とある女の ^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ

○^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ

○^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ

○^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ

○^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ

○^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ

○^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ

○^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ

○^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ

○^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ

○^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ

○^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ ^{ウツ}髪をそぎ

○眉まゆ 川ーこもりー後守ー出可ー二夜のー

柳のー 眉をらふとふハ大田。ークマニオモ他とふハ地下

○代墨ニユスミ 説文云黛畫眉也。○雪眉。○朧ミカツキ。

○山ー。○護ワスレー。○蕨ー。○煙のーこれハ

○大形ー。○男立ーこれハ

○唐ー直たけらる人の

○天上ー。○雲分ー。○柳ー。○枯ー

○麻ナテートハ細く。○眉ハ。○眉ハ。



○眉又志人をさすトハ。○眉ハ。○眉ハ。

○眉ハ。○眉ハ。○眉ハ。

下ノアキヲニツキハスニ。○^{キハスニ}修し書○よろろひの眉

○^{日にも}眉花。○^{日にも}眉ぬく。○^{日にも}眉の根痒

またひらきとるひもこきまうんやらえうんとおす我をハ

○^{ヒタヒ}額丸。○^{ヒタヒ}額丸。○^{ヒタヒ}額丸。○^{ヒタヒ}額丸。

又まゆのまゆもるひも。○すつひひ雅えうひの

○^{ヒタヒ}白つよ。○^{ヒタヒ}白つよ。○^{ヒタヒ}白つよ。○^{ヒタヒ}白つよ。

まゆのぬのちきりつものつまくいひものつけるひひつらひま

○^{カホヨキ}顔垂す。○^{カホヨキ}一化。○^{カホヨキ}一化。○^{カホヨキ}一化。

○^{コヒ}花の。○^{コヒ}一。○^{コヒ}一。○^{コヒ}一。

○^{コヒ}婿。○^{コヒ}婿。○^{コヒ}婿。○^{コヒ}婿。

○^{コヒ}そのめお。○^{コヒ}そのめお。○^{コヒ}そのめお。○^{コヒ}そのめお。

○^{コヒ}あつ。○^{コヒ}あつ。○^{コヒ}あつ。○^{コヒ}あつ。

○^{コヒ}柳。○^{コヒ}柳。○^{コヒ}柳。○^{コヒ}柳。

○^{コヒ}化粧。○^{コヒ}化粧。○^{コヒ}化粧。○^{コヒ}化粧。

○^{コヒ}化粧。○^{コヒ}化粧。○^{コヒ}化粧。○^{コヒ}化粧。

○恋渡。やつれる ちあよゆくとハチーよ恋れ

○女志ろき かりこき おしけなきが 人忘れぬー

○身を川 いよあまこ いよあまこ

○尻たたく えうあ 口吸 咄 口子 罽

○爪 抱口 孫 罽 都 一罽 一意 快 人の香 らき 爪爪

○歯くろり。白歯。歯漆。声 ユエカハリ

○醜 そのつ 定家 忒子 内親 且 乙 乙 して 弁 あり

○粧を焼 我負の又まきき ○妊娠

○懐妊。乃子。妊。胎。たぐるぬ身

○身おし。身うらつ。魚阻。撰食

○月のさつり。けがき ウホ ○帯下

○隙月 うし月 初産 子 産 夕

○髪ぬる うふめ

○三十四

○接カケ 人を送る 〇**龍魂**カケ 人を送りしもの 〇**拍怪**カケ 病を患ふ

○**氣短**シウ 〇**愁眉**シウ 何となく拍あひひさむの 〇**打撃**セツ 曲を打て

〇**虎糞**ソウ 〇**打撃歩**セツ 曲を打て 〇**鷓鴣笑**シヤウ えししとを笑ふ

〇**驚**キョウ 又むくくふるむかたをし 〇**慥**シヤウ 〇**肉屏**ニク 〇**肉陣**ニク

〇**驚**キョウ 又むくくふるむかたをし 〇**慥**シヤウ 〇**肉屏**ニク 〇**肉陣**ニク

〇**驚**キョウ 又むくくふるむかたをし 〇**慥**シヤウ 〇**肉屏**ニク 〇**肉陣**ニク

〇**驚**キョウ 又むくくふるむかたをし 〇**慥**シヤウ 〇**肉屏**ニク 〇**肉陣**ニク

又保衣のテ 〇**妓**キ 〇**圓**イ 天竺送る 又保衣のテ 〇**妓**キ 〇**圓**イ 天竺送る 〇**香肌暖**カウ 〇**肉友**ニク 〇**庵**イ 〇**皮**カウ 〇**厄年**ヤシ 〇**乳**チ 〇**厄年**ヤシ

人倫

神よ女友のものを裁賦系抄をやりけ解し於孫令
孫令拾遺るるしりつきのす

○クハウタイコウ太皇太后宮 帝王の御祖母也

○クハウタイコウ皇太后 帝王の御母也

○クハウコウクウ皇后宮 帝王の御妻也

○ナウクウ中宮 御妻の皇后にむくく三宮の惣を
を中宮と云ふ克仁の御時より
中宮を並嫡妻と稱し桓武の御時又中宮を

は代々皇太后と申之と代りてす

○コクモ女院 申之の法限居之天子の御母也

○コクモ母 是又天子の御母之昔ハ女院母の云る

○ナシ内親王 天子の御姉御妹御姑御親王の宣
下有宣下るき時ハ皇王子と云

○コクモ女王 親王家の御娘を云
令二世以下四世以上

○ニヨウ女御 三公の御娘ハ女御殿を造りて之を周社
ニ女御殿と云ふ徳天皇の時より始

○ニヨウ女御代 女御の次也
彩乃令の妃と云て臣の娘を女御とて云うはて居る也

○御息所 ヤストコロ 東宮の時の御妻之御御子をもつて

又衣る時の御妻之御御子をもつて女侍文衣ることもつて
なりあま原氏の是の御妻は御母の御子をもつて御息所と
の多しあま原氏の是の御妻をもつて御息所と
御息所と御妻之御御子をもつて御息所と
てくはいまんの御妻も御息所とあり

○更衣 カウイ 大細言の御姫之御子の衣をせしむる御

○北政所 キタノシ 親王御家御自の御妻をいふ

○御臺盤所 ミタイハン 清原殿あり女侍つて御食を

○御匣殿 ミツツ 御後と立ぬる御親殿の御御子

○宣旨 ノリ 御家之御御子

○令婦 メウフ 内令婦五位以上をいふ令婦五位以上の

○女友 メトモ 御妻と御子と御親殿の御御子

○主殿 ヌシノミ 御妻と御子と御親殿の御御子

○得選 トクセン 御妻と御子と御親殿の御御子

○カ自 カミ 御後御の御妻と御御子

○**東宮三司** トウウツクシ 公亮ヨリ内侍司の祓有る幼者の時
 二子あり侍をすまへしを唯ねとツル又東
 宮と子安御設唯ねと子中ひめまらきまらきとひめ侍を
 ひめ侍を松といひり

○**雑仕** カウシ 法を又ハ侍女
これに任す ○**上臺** ウヘワラハ 女侍上取の
女房也

○**下仕** シモツカハ 上日
 ○**房** ツホ子 女房の取系を子
長格のつら

○**内侍司** ナイシ 員婦人仕友の志すてま人と子
内侍以下十二司はま人と

○**尚侍** シヤウシ 後三位ま人の内の上落子して
右長女是に任

○**典侍** テンシ 後四位公々侍長女也

○**掌侍** シヤウシ 後六位典掌四人てを四人の内者一と
勾當の内侍とつし將軍をより内者を
 有る内侍を又より勾當にあつ

○**女嬬** ニヨ 下役し百人を
を代ハハ袖よりくち

○**花司** ハナシ 三種の宮内侍
二種の花司は御殿の御者あり
 三種の花司は御殿の御者あり

○**書司** シヨシ 後七位四人女侍十人掃除さし由木の役
法くの女侍書司琴の御司
 女侍六人

○**兼司** カウシ 元日屠殺はしよりを一切の兼の役
者兼後六位一人典兼後八位二人
 兼子四人はしよりを後兼味役し

○**兼司** カウシ 元日屠殺はしよりを一切の兼の役
者兼後六位一人典兼後八位二人
 兼子四人はしよりを後兼味役し

○兵部 兵部ハ兵庫寮子細とつこもしたの御
夜の兵部ハ多司よつきとる○兵部一人

正七位○典兵後八位二人○女侍六人
○典兵相通の少門をり○ち圍一人

○衛司 衛司ハ相通の少門をり○ち圍一人
○典兵四人○女侍十人

○殿司 殿司ハ相通の少門をり○ち圍一人
○典兵後八位二人○女侍六人

○掃司 掃司ハ相通の少門をり○ち圍一人
○典兵後八位二人○女侍十人

○氷司 氷司ハ相通の少門をり○ち圍一人
○典兵後八位二人○女侍十人

○膳司 膳司ハ相通の少門をり○ち圍一人
○典兵正六位二人○女侍八位四人

○酒司 酒司ハ相通の少門をり○ち圍一人
○典兵正六位一人○女侍八位二人

○上臈 上臈ハ相通の少門をり○ち圍一人
○典兵正六位一人○女侍八位二人

○中臈 中臈ハ相通の少門をり○ち圍一人
○典兵正六位一人○女侍八位二人

○下臈 下臈ハ相通の少門をり○ち圍一人
○典兵正六位一人○女侍八位二人

○あて人 上臈のひめまらえ
○典兵正六位一人○女侍八位二人

○あて人 上臈のひめまらえ
○典兵正六位一人○女侍八位二人

○あて人 上臈のひめまらえ
○典兵正六位一人○女侍八位二人

○あて人 上臈のひめまらえ
○典兵正六位一人○女侍八位二人

○あて人 上臈のひめまらえ
○典兵正六位一人○女侍八位二人

○あて人 上臈のひめまらえ
○典兵正六位一人○女侍八位二人

○あて人 上臈のひめまらえ
○典兵正六位一人○女侍八位二人

○あて人 上臈のひめまらえ
○典兵正六位一人○女侍八位二人

○あて人 上臈のひめまらえ
○典兵正六位一人○女侍八位二人

○あて人 上臈のひめまらえ
○典兵正六位一人○女侍八位二人

○后キガキ 在カか

カハ後カの字のあとにカハと云ふと云ふと

○一の女ウチメ

ウチメハ一ツの女メの内ウ竹メ。カ人の友

○女ウチメ又メ 女ウチメ又メ

ウチメハ女ウチメの又メ。白ウくメぬ女のきぬ

○家ウチメ女メ

ウチメハ家ウチメの女メ。白ウくメぬ女ウチメのカメ

○安見ヤスミ

ヤスミハ安ヤ見ミの字のあとにヤと云ふと云ふと

○ふるフ

フハふフの字のあとにフと云ふと云ふと

○蘇ス姫ヒメ 又メ 又メ 又メ

スハ蘇ス姫ヒメの字のあとにスと云ふと云ふと

○八ヤ乙ヒ女メ 又メ 又メ 又メ

ヤハ八ヤ乙ヒ女メの字のあとにヤと云ふと云ふと

○傳カモト

カモトハ傳カモトの字のあとにカと云ふと云ふと

○侍オモト女メ 又メ 又メ 又メ

オモトハ侍オモト女メの字のあとにオと云ふと云ふと

○町チヨ尻シのシ 又メ 又メ 又メ

チヨハ町チヨ尻シの字のあとにチと云ふと云ふと

○宮ミヤ仕ツのツ 又メ 又メ 又メ

ミヤハ宮ミヤ仕ツの字のあとにミと云ふと云ふと

○宮ミヤ仕ツのツ 又メ 又メ 又メ

ミヤハ宮ミヤ仕ツの字のあとにミと云ふと云ふと

○蘇ス姫ヒメ

○三十九

○おないえ 女子の嫡子 ○くぢ ウツは女房

函フクレけハメの通祿 ○お付ツケ ものけはま女房を

○御所 え春盤とい孫のふくまをふとい

春盤ハルハをハ男ヲ いふ人の妻といふは夫の食物を

御中 おりのは妻を中をいふは人の内よの

○家勢様 公家の ○上様 今ハイヤ

妻をハかサさメとイつテいフと遠りないキ人の妻

を祿ルして上極トといひしこれハいふ今ハいふといふ

女友といふ一条屋敷室所屋敷の上極トといふ今ハいふといふ

いふ信又人ト ○新造 いふまさ人ハ必妻を定む

奥力 はハ世の 本 人

○さしづ 通正才とてまのけをいふ主人

ナニホウ 原平盛義記にあり安成つ女房と

○男房 いふり男の力をいふ男房といふといふ

いふれとさまあらぬ女房男房共は後をいふといふといふ

○妻 今夫妻といひて、男の方をさへられとこに、又よ
く人ぬく女の方より、男を妻といひ、男の方

より、女を妻といふ。○はし妻のほきつま
ま、あつまより、と。

○とほ妻のむつまは、○一扱妻のほけ
は、ま、あつまより、と。

○人妻 恋屋 花 いろひ いろひ
あつまより、と。

○玄妻 我 祖 三山のぬき
あつまより、と。

○とほ妻のむつまは、○一扱妻のほけ
は、ま、あつまより、と。

○人妻 恋屋 花 いろひ いろひ
あつまより、と。

○玄妻 我 祖 三山のぬき
あつまより、と。

○とほ妻のむつまは、○一扱妻のほけ
は、ま、あつまより、と。

○人妻 恋屋 花 いろひ いろひ
あつまより、と。

○玄妻 我 祖 三山のぬき
あつまより、と。

○とほ妻のむつまは、○一扱妻のほけ
は、ま、あつまより、と。

○人妻 恋屋 花 いろひ いろひ
あつまより、と。

○玄妻 我 祖 三山のぬき
あつまより、と。

○とほ妻のむつまは、○一扱妻のほけ
は、ま、あつまより、と。

ぬいある人。ほ妻

ノチツレ
ウハナリ

ほ子
ましき

ほ孫
継母

○碎女テカ女今子。ほ家

廷妻

ほ家
まろ

○嬢カ。媪カ。母カ。かぶ

カ
カ
カ
カ

カ
カ
カ
カ

カ
カ
カ
カ

○夫婦。女カ夫カ。妹イモ。弟イモ。

イモ
イモ

イモ
イモ

○男カする。連ツレ合アイ。

ツレ
アイ

ツレ
アイ

ふふ合
うう年
うふ合
うう年

うふ合
うう年
うふ合
うう年

○夫ウツト。ほ夫ノチツレ。吾ワカセ子コ。吾ワカセ兄コ子コ。

○女

をんををるハ共ニ妻使をを古妻美那
をるををるをにる直ををんをををを

一 女カ 一 兄イモ 一 弟イモ 一 下カ

一 女カ 一 性カ 一 女カ 一 性カ

○女カ。御ゴ。御ゴ。御ゴ。御ゴ。

女カ御ゴ御ゴ御ゴ御ゴ
女カ御ゴ御ゴ御ゴ御ゴ

○やいせ。御ゴ。御ゴ。御ゴ。御ゴ。

○わいせ。御ゴ。御ゴ。御ゴ。御ゴ。

○スツの何し函せのほの嫌イマの妹ハいし

女足舟の妹とツヤとお女いしとくるとのつしうり冠こ
こふハ上ツ代とく末の代と西の代とさしう末の代とさし
ハ原代とくらせこの代ハ原小をといふにさるるを原代
その小をよむるひてその原のてめとつせしとのまのし
もたまの物ゆかし古者不レ言兄弟長知女以男
祢レ兄男以女祢妹ト男

○花女花女とツヤ今あしとてけいせいのやうと思

花ハりすし昔ふれ天皇八人の姫を七尾をきりて
君の名とさしむとあれハいねえとてきり

○花君上よ○こ女オト○憾オトたオトのオト嬌上よ

おとめとしこえ少女のやうなまゆれとおとめをとりと
うるも遠よりおとめはるるての女ハ男又おとめ
たるゆにおとめと子男ハ女又まきうたるぬまを男と

○まへるのおとめスうまのたんオトのオト

○まへオトて女オト田オトく女オト○たオトこオト田オトくオト○ゆオトびオト

田オトくオトのオトめオトとオトりオトおオトとオトめオトとオトりオト

○婦オトの人オトのオト女オト言オト郎オト女オトのオト祐オトし

○いオトつオトつオトめオト言オト女オトとオト去オト刑オト○美オト女オト刑オト

のるのいあり房之瀬原美女ゆきハ等るとせるる

女中 にふし 女 にふ 女 にふ 女 にふ

たをや女 たをや 女 にふ 女 にふ 女 にふ 女 にふ

忌よかけら女 にふ 女 にふ 女 にふ 女 にふ 女 にふ

鬼 にふ 女 にふ 女 にふ 女 にふ 女 にふ

女 にふ 女 にふ 女 にふ 女 にふ 女 にふ

女 にふ 女 にふ 女 にふ 女 にふ 女 にふ

女 にふ 女 にふ 女 にふ 女 にふ 女 にふ

女 にふ 女 にふ 女 にふ 女 にふ 女 にふ

女 にふ 女 にふ 女 にふ 女 にふ 女 にふ

女 にふ 女 にふ 女 にふ 女 にふ 女 にふ

女 にふ 女 にふ 女 にふ 女 にふ 女 にふ

女 にふ 女 にふ 女 にふ 女 にふ 女 にふ

○女曹カシ 少女之類 ○女の臺ウラハ ちまきるり
をんるの子

○来儿カッロ 少女の通称にかむるり ○名雲のモ 子もり

○侍母モリ 子もり ○薛女モリ 下女

○あこアコ 少女之吾子コトコ ○以料人

○ごり人ゴリ 昔まいきモリ ○老女モリ 古女

○女翁メウメ 和名 老女之モリ 訓 考一とつふみり

○姫ヒメ おひるい おうるい 老女の称
毛岐良の古語

○負ヒ 古流ニ老母を負とす ○刀自ヒ 戸主

○戸母ヒ 老嫗 ○親自ヒ 戸ハおと自ハまの

○刀自ヒ 女 後記ニ下ニ女の名ニ刀自女とつふ

○下年ヒ 考一 一級ま女の志あるにつけて子許号

○眉ヒ 眉とじめ

○焼ヒ 焼

○法ヒ 法

○延虫アハムシ。海人ウミタチ。志賀のシガ。いせのイセ。
 うくウク。海士ウミシ。伊予のイヨ。よきのヨキ。
 そまのソマ。一のイチ。おとめオトメ。カッキカッキ。
 一のイチ。の子ノコ。河女カハメ。

かつきのカツキ。延虫アハムシ。汐汲シホヅク。田子のタノ。一イチ。一イチ。一イチ。里リ。

○市女イチメ。早妻女ハヤウメ。うウ。八ヤチ。たタ。まマ。りリ。里リ。

女メ。之ノ。花ハナ。けケ。ぬヌ。のノ。まマ。のノ。のノ。スス。アア。イイ。女メ。三ミ。女メ。あア。まマ。えエ。とト。こコ。
 海ウミ。尾ビ。のノ。うウ。いたイタ。まマ。うウ。

○狩カ。つツ。もモ。かいカイ。女メ。幸サイ。子シ。のノ。扇アウ。をヲ。賣ウ。女メ。業ゴト。

○扇アウ。折ヲ。帯オビ。賣ウ。女メ。扇アウ。をヲ。賣ウ。女メ。業ゴト。白シロ。川カハ。

○おオ。りリ。めメ。おオ。へヘ。こコ。昔ムカシ。のノ。女メ。小コ。婦メ。とト。めメ。こコ。

○麻アサ。のノ。子コ。ゆユ。ひヒ。綾リヨ。一イチ。てテ。こコ。女メ。のノ。名ナ。

○かカ。はハ。妻ウメ。賣ウ。女メ。早ハヤ。妻ウメ。女メ。扇アウ。をヲ。賣ウ。女メ。業ゴト。

○湯ユ。女メ。風フウ。呂ロ。屋ヤ。のノ。膝ヒザ。上ノ。拍ヒキ。拍ヒキ。

○警コ。女メ。女メ。めメ。くク。了シヤウ。女メ。法ホウ。師シ。

○女メ。おオ。しシ。やヤ。白シロ。拍ヒキ。子シ。伊イ。豆マメ。のノ。代トコロ。

○女メ。屏ヒラ。女メ。只ただ。女メ。をヲ。よよ。女メ。屏ヒラ。女メ。大オホ。拍ヒキ。影カゲ。多タ。

○痒子。○飛云子。○科妙。○あじ

細川女。○志。○醜女。○落買。人相川蒙 洛の如を

盤の甲よりある女の乃よ袋をひくまぬ友の落を

買世ワラありヲナヤナイとてて呼出好

意のハツ所よりある。○見買。むい。乳ある女

やまぬとよやとある。○見買。を連ちこくを

洛舟を。○法。ホロミツウリ 一色赤き味味

味おりく。○法。味味 黒豆割ち之標の

うこひををさるる。○法。味味 曲物よまひい

るる。○法。味味 何れも下は室を

一色をさるる。○法。味味 けさせぬり

子のあき女まきけれい。○法。味味 けさせぬり

